

斷走しあられ一二の備は其俟かりを焚えねし陣  
五陣二軍に成り鳴りを静めて廿丁計り川下へ廻り代  
を渡して二ツ井河を越へ田道河原より敵の後へ廻り中  
京田より明松を過ぎ鯨波の勢を仰け一軍は左の河原  
より横谷にかりて前の川へ追落さんる掌の中ありと  
謀りて城兵動きたるも今宵は休息し寐入るも  
何れ先陣はあらずや取付もやと用合ふれは後より  
相懸しと六思ひもあらずなれは油断して居たり  
々々所は越後勢平京田中京田の方なり其間丁をうり  
に馳走て俄に明松を振りて鯨波をあげて後陣の

先中へ切を入りぬ左の河原よりも切りかりたるは京上  
勢離れ立て後陣先陣の間に周章する所を越後の  
大勢取巻くおまき程に城兵大に敗走し虎は助  
取て返し戦ひけるに京上勢も後陣を助えと  
長刀を振舞ひかり出るお路ふ京上勢前後をくろ  
めて戦ふも受も敵云ふ如く入る智り立智り攻め  
るに京上も強り少あらず付きぬ今や手分は  
叶わぬと二人一所にありて激戦し一隊二隊を打散ら  
し物々四方を見出しに公智り者も城中へ火をあげ焼  
き火見矢倉に充滿し其雜兵も是を見え途